

在南ア日本大使館
領事がつづる

南アフリカ通信

Vol. 31

文・写真◎新保 剛



2010年のワールドカップ開幕まで、あと114日。
開催国の南アのことをよく知らない人も多いだろう。
現地在住の日本大使館領事から届くこのコラムで
生の南アフリカを見て、知って、本大会に備えよう！

今回は日本代表のキャンプ地、ジョージを紹介しよう。ジョージは、ガーデン・ルートのと呼ばれる風光明媚な海岸線の中心にあるリゾート地で、インド洋に面しているが、南極からくる風の影響で、夏でも海水は冷たい。

ガーデン・ルートのほとんどは、山が海の近くまで迫っている。ジョージは、特に1500メートル以上の山が後背地にあって、ダイナミックな景観をつくっている。筆者はこの町を通ったことがあるが、景観に加え、住宅地や公園の美しい芝生が目に見え、印象深かった。

この町は、引退した人がゆつくりと余生を楽しむ場所というイメージがある。若い人には退屈かもしれないが、代表選手にとってはナイトライフの誘惑もなく、集中力を高めるには最適だろう。また、安全なところでもある。ヨハネスブルグでは高さが3メートル以上の塀やフェンスが当たり前だが、ここでは人の高さを超える塀はあまり見当たらない。南アフリカで

●「低地での休養を選んだ日本代表のキャンプ地」●



▲ヨハネスブルグ、サッカーシティ・スタジアムのそばに完成した南ア・サッカー協会本部

は、塀の高さは危険度と相関関係にある。

ワールドカップ組織委員会によれば、各国のキャンプ地の半数以上が高地のハウテン州に集まっている。ガーデン・ルートを選んだのは、今のところ3カ国。フランスとデンマークが、ジョージから50キロほど離れたナイズナにキャンプを張るようだ。決勝トーナメントに向けて、高地順化をとるが、低地休養をとるか、チーム戦略の差が出ていて興味深い。

町の背後にそびえる山を越えて内陸に行くと景色が一変する。一面の荒野を通り抜けると、かつてダチョウ飼育で富を築いたオーツホーンの町が見えてくる。この近辺には今でもダチョウ農場が多い。観光客向けにダチョウのレースや騎乗体験ができるところもある。

冬のジョージは雨の日が多いので傘を持参した方がいい。気温も下がるが、試合観戦をするわけではないから、コートンの類で十分だと思う。ただし、「ここをベースにワールドカップを観戦するのは、恐らく無理だ。試合会場は遠く、飛行機を使うしかないが、ジョージ出発の航空便数は多くない。

日本代表が早くからキャンプ地として選んだためか、町全体が非常に親日的なムードになっている。日本人サポーターを歓迎してくれると思う。

著者プロフィール ●一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップに向け、日本人旅行者に安全情報を発信する

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp> 在南アフリカ日本国大使館 http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html